



東京  
日本  
坡  
樹  
行  
郵

16

卷之三

卷之三



This image shows a vertical calligraphic inscription in black ink on a piece of aged, yellowish-tan paper. The characters are written in a bold, expressive cursive style. At the top, there is a large character, likely '大' (large). Below it, there are several characters, including what appears to be '事' (affair) and '人' (person). The strokes are thick and fluid, with some ink bleed-through visible on the reverse side of the paper.

四  
二

三

主と朝の爲文

何物者の替玉

之國飛のニニテホ

の一面に寒松院誠

久松中了理想的

匪所長セキノ一节

アリ一节の上

安達ニシテ入せみ

久

安達ニシテ又せみ

ア一花の上

向

松尾ニ

獅子ニ歎

也ヘテノ但下女が

内説べ居につと聞く

事あの方ド詫しニ

尼依リ

起

内ガ晴

小おとて下女が

は全くの船内下女

船來の

まあの方ドルをし  
+ニ

尼宿ニシヤク 越カム 間カツ 晴

小舟とて下女コノヒメ が下女

は全くの船内ボウナ 下女

船來ボウライ の

船主ボウシ 村とゆ利産

とももつりと下女コノヒメ が殺

生番ボウバン とたしわ

い後アフタ まごしマゴシ 仕事

つたと、多々タダハ は

介カミ るニ三鈴山ミソザクラ

山サン に は 安達

之とおとしわく

之は仕事とおとしわく

之は仕事とおとしわく

今おみ三鷹丸

出候りけ

と呼びび一ノ山泊

せ波止

桟橋

彼奴の肌は不味

と云ふ

食は

せう丈念はせへ彼の上

骨高ばせせせせせ

彼の頭一

之は仕事とおとしわく

食

せつ丸倉はせの下の行

骨高はせたる井の

彼の源元と

アヒルが他の

ちよつと一寸

母理川と同行者

ナムシウ御の源

之假西下し

じよつとすくいに在

ガヤルホトチノ

大板瓦

ナカニヤ  
御の御  
はな

立候西下

ヒヨツとすとせん立在

旗やれ却下さ候

大板石

ノ同付内伊

平日一、三云

因兄